

## 研究題目：特定保健指導該当者を対象とした未利用の動機測定尺度の開発

### 【目的】

本研究の目的は、特定保健指導の利用行動が未利用となる動機を把握するために、未利用の動機の程度を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性の検証を通して、特定保健指導該当者を対象とした未利用の動機測定尺度（以下、「未利用動機測定尺度」）を開発することである。

### 【方法】

研究対象者は、2市1町1村における市町村国民健康保険被保険者のうち、平成29年度の特典保健指導に該当した積極的及び動機づけ支援者3,738人である。尺度の開発は、①概念枠組みの明確化、②先行研究などに基づく質問項目の作成、③専門家会議及びパイロットスタディによる内容的妥当性の検討、④特定保健指導該当者を対象とした本調査の実施及びデータの項目分析、尺度の信頼性・妥当性の検討とした。

### 【結果】

質問紙の回収数は1,849人（回収率49.5%）であった。尺度開発の分析対象者は、特定保健指導の利用の有無について、「利用なし」と回答した934人とした。項目分析は、天井効果・フロア効果、I-T相関分析、項目間相関係数、G-P分析、及び各項目を削除した場合のクロンバック $\alpha$ 信頼係数を確認した。因子分析による尺度項目の再構成を行った結果、18項目が選定された。選定された18項目の探索的因子分析を行った結果、4因子が抽出された。4因子の命名は、【理想的な健康よりも優先される価値観】【生活習慣を変えることに対する無益感】【保健指導に対する否定的な感情】【自身の健康の判断に対する自負心】とした。尺度全体のクロンバック $\alpha$ 信頼係数は0.904、下位尺度は0.732～0.867であり、信頼性が確認された。確認的因子分析による適合度は、GFI=0.936、AGFI=0.915、CFI=0.941、RMSEA=0.059であった。既知グループ法は、有意な関連があり、基準関連妥当性は、HLC尺度との有意な負の相関が認められ、尺度の妥当性が確認された。

### 【結論】

検討の結果、4下位尺度18項目からなる「未利用動機測定尺度」が開発された。本尺度は、特定保健指導の未利用の動機を測定するために有用である。